

A 基礎 祇園精舎の言葉とたとえ

練習 全8問 目安20分

語句・否定・対句・たとえを一つずつ理解する。

字数指定のない答えは、必要な内容を簡潔に書きましょう。選択問題は指定された記号を○で囲みます。

本文 平家物語

① 祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり。娑羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。猛き者もつひには滅びぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。

注 祇園精舎（ぎおんしょうじゃ）＝古代インドにあった仏教の寺。娑羅双樹（しゃらそうじゅ）＝釈迦の入滅の伝承に関わる木。

注 諸行無常（しょぎょうむじょう）。盛者必衰（じょうしゃひっすい）。理（ことわり）。猛き（たけき）。

注 原文の漢字・仮名・句読点の表記は、教科書や底本によって異なることがあります。

原文は歴史的仮名遣いを基本に示しています。

問1 「つひに」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

問2 「おごれる人」の意味に合うものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人に食事をごちそうする人

イ いつも人を助ける人

ウ 長く旅を続ける人

エ 力を頼んで思い上がっている人

問3 「久しからず」は、どのようなことを表しますか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 昔から同じ状態である。

イ 長くは続かない。

ウ まだ始まっていない。

エ 二度と現れない。

問4 「おごれる人」をたとえたものを、本文から5字で抜き出しなさい。

5

A 基礎 祇園精舎の言葉とたとえ 続き

練習 全8問 目安20分

本文・注は、このセットの冒頭（問題 1ページから）を参照。

問5 「猛き者」が結局は滅ぶことを、本文では何にたとえていますか。本文から5字で抜き出してください。

--	--	--	--	--

5

問6 「鐘の声」と対になっている語句を、本文から3字で抜き出してください。

--	--	--

3

問7 「盛者必衰」の意味に最も近いものを選び、記号で答えなさい。

- ア 栄えている者も、必ず衰える。
- イ 栄えた者は、いつまでも栄える。
- ウ 衰えた者だけが、再び栄える。
- エ 弱い者は、必ず強い者に勝つ。

問8 「猛き者もつひには滅びぬ」を、現代の言葉に訳してください。

B 標準 扇を射る前の状況と祈り

練習 全8問 目安25分

自然の条件、両軍の視線、与一の願いを区別する。

本文 平家物語

① 比は二月十八日酉の刻ばかりの事なるに、折節北風烈しくて、磯打つ波も高かりけり。舟は揺り上げ揺り据ゑて漂へば、扇も串に定まらず閃いたり。沖には平家舟を一面に並べて見物す。陸には源氏轡を並べてこれを見る。いづれもいづれも晴れならずといふ事なし。

本文 続き

② 与一目を塞いで、「南無八幡大菩薩、別しては我国の神明、日光権現、宇都宮、那須湯泉大明神、願はくはあの扇の真中射させて賜ばせ給へ。射損ずるほどならば、弓切り折り自害して、人に二度面を向くべからず。今一度本国へ迎へんと思し召さば、この矢外させ給ふな。」と心の内に祈念して、目を見開いたれば、風少し吹き弱つて、扇も射よげにぞなりにけれ。

注 【場面】屋島の戦い。源氏の武士、那須与一（なすのよいち）が、平家の舟に立てた扇を射るよう命じられている。

注 比（ころ）。酉の刻（とりのこく）＝午後6時ごろ。折節（おりふし）＝ちょうどその時。烈しく（はげしく）。

注 揺り上げ揺り据ゑて＝上へ下へと揺れて。閃いたり（ひらめいたり）＝ひらひらしている。轡（くつわ）＝馬につける道具。ここでは馬を指す。

注 南無（なむ）＝仏への帰依・呼びかけの言葉。八幡大菩薩（はちまんだいぼさつ）・日光権現・宇都宮・那須湯泉大明神＝与一が祈る神仏の名。

注 賜ばせ給へ（たばせたまえ）＝ください。願いを神仏に丁寧に伝える言い方。思し召さば（おぼしめさば）＝お考えならば。祈念＝神仏に祈ること。射よげ＝射やすそう。

注 原文の漢字・仮名・句読点の表記は、教科書や底本によって異なることがあります。

原文は歴史的仮名遣いを基本に示しています。

問1 ①の「いづれ」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

B 標準 扇を射る前の状況と祈り 続き

練習 全8問 目安25分

本文・注は、このセットの冒頭（問題3ページから）を参照。

問2①の「晴れ」が表す意味として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- | | |
|------------------|---------------|
| ア 雲が全くない天気 | イ 争いがなく平和な状態 |
| ウ 多くの人に見られる晴れの場合 | エ 気持ちの落ち着いた状態 |

問3 ①で扇が定まらない理由を、風・波・舟に触れ、40字以内で説明しなさい。

																		18	
																		36	
				40															

問4 ①で平家と源氏は、それぞれどこから見ていますか。平家、源氏の順で答えなさい。

問5②の「この矢外させ給ふな」を、与一の願いとして現代語に訳しなさい。

問6 ②のかぎかっこの部分は、どのように述べられた言葉ですか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 源氏の全員が声をそろえて唱えた言葉
イ 平家の人が与一に聞こえるように叫んだ言葉
ウ 与一が舟の女房と交わした会話
エ 与一が心の中で神仏に祈った言葉

B 標準 扇を射る前の状況と祈り 続き

練習 全8問 目安25分

本文・注は、このセットの冒頭（問題 3ページから）を参照。

問7 ②で与一が目を開いた時、自然の状況はどう変わっていましたか。本文に沿って答えなさい。

問8 ②の祈りから、与一は射損じることをどう受け止めていると分かりますか。「人に二度面を向くべからず」を根拠に、40字以内で説明しなさい。

																		18	
																		36	
																			40

C 応用 一矢と両軍の反応

練習 全8問 目安25分

矢と扇の動き、色と音、反応の共通点を読む。

本文 平家物語

① 与一鎗を取つて番ひ、よつ引いてひやうと放つ。小兵といふ条、十二束三伏、弓は強し、鎗は浦響くほどに長鳴りして、過たず扇の要際一寸ばかり置いて、ひいふつとぞ射切つたる。鎗は海に入りければ、扇は空へぞ揚がりける。春風に一揉み二揉み揉まれて、海へさつとぞ散つたりける。皆紅の扇の日出だいたるが、夕日に輝いて、白波の上に浮きぬ沈みぬ揺られけるを、沖には平家舷を叩いて感じたり。陸には源氏箆を叩いて響めきけり。

注 鎗（かぶら）＝ここでは音を出して飛ぶ鎗矢。番ひ（つがい）＝矢を弓の弦にかけて。よつ引いて＝十分に引いて。

注 小兵（こひょう）＝体が小さいこと。条（じょう）＝ここでは「とはいっても」。十二束三伏（じゅうにそくみつぶせ）＝長い矢の寸法。

注 要際（かなめぎわ）＝扇の骨をまとめる留め具の辺り。一寸＝約3センチメートル。皆紅（みなくれない）＝全体が紅色。日出だいたる＝日の丸を描いた。

注 舷（ふなばた）＝舟べり。箆（えびら）＝矢を入れて背負う道具。響めき（どよめき）＝大勢が声を上げること。

注 原文の漢字・仮名・句読点の表記は、教科書や底本によって異なることがあります。

原文は歴史的仮名遣いを基本に示しています。

問1 矢を放つ音を表す「ひやう」を、現代仮名遣いに直しなさい。

問2 「番ひ、よつ引いてひやうと放つ」の主語を書きなさい。

問3 矢が狙いを外さなかったことを示す語を、本文から3字で抜き出しなさい。

--	--	--

3

C 応用 一矢と両軍の反応 続き

練習 全8問 目安25分

本文・注は、このセットの冒頭（問題 6 ページから）を参照。

問4 矢が扇を射切った後の扇の動きを、順に並べて記号で答えなさい。ア 海へ落ちる イ 空へ上がる ウ 春風にもまれる

問5 夕日に輝く場面で、扇と波の色はそれぞれ何色ですか。扇、波の順に答えなさい。

問6 「浮きぬ沈みぬ」は、扇のどのような動きを表していますか。20字以内で説明しなさい。

																				18
		20																		

問7 与一の一矢を見た平家と源氏の反応に共通する気持ちを、二つの行動を根拠に45字以内で説明しなさい。

																		18
																		36
									45									

問8 「ひやう」「ひいふつ」「さつ」などの言葉には、どんな効果がありますか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 与一がゆっくり考える時間だけを詳しく表す。

イ 矢や扇の音・動きを生き生きと感じさせる。

ウ 平家が負けを認めて戦いをやめたことを示す。

エ 語り手が場面を見ず、何も知らないことを示す。

D 確認テスト 言葉・情景・人物

確認テスト 全8問 目安35分 100点

冒頭の考え方と扇の場面を、100点のテストで確かめる。

本文 平家物語

① 祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり。娑羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。猛き者もつひには滅びぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。

本文 続き

② 比は二月十八日酉の刻ばかりの事なるに、折節北風烈しくて、磯打つ波も高かりけり。舟は揺り上げ揺り据ゑて漂へば、扇も串に定まらず閃いたり。沖には平家舟を一面に並べて見物す。陸には源氏轡を並べてこれを見る。いづれもいづれも晴れならずといふ事なし。

本文 続き

③ 与一目を塞いで、「南無八幡大菩薩、別しては我国の神明、日光権現、宇都宮、那須湯泉大明神、願はくはあの扇の真中射させて賜ばせ給へ。射損ずるほどならば、弓切り折り自害して、人に二度面を向くべからず。今一度本国へ迎へんと思し召さば、この矢外させ給ふな。」と心の内に祈念して、目を見開いたれば、風少し吹き弱つて、扇も射よげにぞなりにけれ。

本文 続き

④ 与一鎗を取つて番ひ、よつ引いてひやうと放つ。小兵といふ条、十二束三伏、弓は強し、鎗は浦響くほどに長鳴りして、過たず扇の要際一寸ばかり置いて、ひいふつとぞ射切つたる。鎗は海に入りければ、扇は空へぞ揚がりける。春風に一揉み二揉み揉まれて、海へさつとぞ散つたりける。皆紅の扇の日出だいたるが、夕日に輝いて、白波の上に浮きぬ沈みぬ揺られけるを、沖には平家舷を叩いて感じたり。陸には源氏簀を叩いて響めきけり。

注 祇園精舎（ぎおんしょうじゃ）＝古代インドにあった仏教の寺。娑羅双樹（しゃらそうじゅ）＝釈迦の入滅の伝承に関わる木。

D 確認テスト 言葉・情景・人物 続き

確認テスト 全8問 目安35分 100点

注 諸行無常（しょぎょうむじょう）。盛者必衰（じょうしゃひっすい）。理（ことわり）。猛き（たけき）。

注 【場面】屋島の戦い。源氏の武士、那須与一（なすのよいち）が、平家の舟に立てた扇を射るよう命じられている。

注 比（ころ）。酉の刻（とりのこく）＝午後6時ごろ。折節（おりふし）＝ちょうどその時。烈しく（はげしく）。

注 揺り上げ揺り据ゑて＝上へ下へと揺れて。閃いたり（ひらめいたり）＝ひらひらしている。轡（くつわ）＝馬につける道具。ここでは馬を指す。

注 南無（なむ）＝仏への帰依・呼びかけの言葉。八幡大菩薩（はちまんだいぼさつ）・日光権現・宇都宮・那須湯泉大明神＝与一が祈る神仏の名。

注 賜ばせ給へ（たばせたまえ）＝ください。願いを神仏に丁寧に伝える言い方。思し召さば（おぼしめさば）＝お考えならば。祈念＝神仏に祈ること。射よげ＝射やすそう。

注 鎚（かぶら）＝ここでは音を出して飛ぶ鎚矢。番ひ（つがい）＝矢を弓の弦にかけて。よつ引いて＝十分に引いて。

注 小兵（こひょう）＝体が小さいこと。条（じょう）＝ここでは「とはいっても」。十二束三伏（じゅうにそくみつぶせ）＝長い矢の寸法。

注 要際（かなめぎわ）＝扇の骨をまとめる留め具の辺り。一寸＝約3センチメートル。皆紅（みなくれない）＝全体が紅色。日出だいたる＝日の丸を描いた。

注 舷（ふなばた）＝舟べり。箆（えびら）＝矢を入れて背負う道具。響めき（どよめき）＝大勢が声を上げる

注 原文の漢字・仮名・句読点の表記は、教科書や底本によって異なることがあります。

原文は歴史的仮名遣いを基本に示しています。

問1〔10点〕①の「ひとへに」を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。

問2〔10点〕①の「諸行無常」の意味に最も近いものを選び、記号で答えなさい。

ア 努力した人は、必ず永久に栄える。

イ 鐘の音だけが、いつまでも消えずに残る。

ウ 世のすべてのものは、変化して同じ状態を保たない。

エ 強い者だけは、決して衰えることがない。

D 確認テスト 言葉・情景・人物 続き

確認テスト 全8問 目安35分 100点

本文・注は、このセットの冒頭（問題 8ページから）を参照。

問3〔10点〕③の「目を見開いたれば」と④の「扇は空へぞ揚がりける」の主語を、順に答えなさい。

問4〔10点〕①から、「おごれる人」が長く栄え続けないことを表す部分を、5字で抜き出しなさい。

					5
--	--	--	--	--	---

問5〔15点〕①の「春の夜の夢」と「風の前の塵」に共通する性質は何ですか。人の勢いとの関係が分かるように40字以内で説明しなさい。

																		18
																		36
					40													

問6〔15点〕②で射るのが難しい条件と、与一が人目を意識する条件を、一つずつ挙げて50字以内で説明しなさい。

																		18
																		36
															50			

D 確認テスト 言葉・情景・人物 続き

確認テスト 全8問 目安35分 100点

本文・注は、このセットの冒頭（問題 8ページから）を参照。

問7〔15点〕 ④の「鎬は海に入りければ、扇は空へぞ揚がりける」を、現代語に訳しなさい。

問8〔15点〕 ④から確かに読み取れることを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 敵味方をこえて、両軍が与一の技をたたえている。

イ 平家は扇を射られて、すぐに全員が降伏した。

ウ 源氏は与一の行動に反対し、声を上げて責めている。

エ 与一は一度失敗し、二本目の矢で扇を射切った。

得点 /100点 解き直した日 月 日